

学校名 鈴鹿市立牧田小学校

学校長名 山路 伸一

校内研修実施計画書

1 研究主題及び教科

研究主題	意欲的に学び、生きる力を身につけていく子ども －ひとりひとりの学力保障をめざして－
教科・領域	算数科・日本語指導

2 主題設定の理由

本校は、昨年度鈴教研の委託を受け、算数科の学力向上をめざした研究活動と併せて、J S L、バンドスケールについて研究を進め、その判定に基づいての外国人児童の指導体制や支援のあり方についての研究成果を発表した。

本校には多くの外国人児童が在籍し、外国人児童が基礎基本の学力を身につけていくことが重要である。彼らの学力を保障するためにも、外国人児童にわかるように指導を研究することは、すべて児童に基礎基本の学力を保障することにつながると考えて研究を進めてきた。

今年度も、昨年度までの研究成果を土台にして、算数科の基礎基本の学力を身につけることと日本語指導の充実をめざして研究を進める。在籍学級といきいき教室での日本語指導の連携をさらに深め、「すべての子どもがわかる算数科の授業研究」と「日常の取組」の2つの面からすべての児童にとっての学力保障のための有効な指導方法を探り求めていきたい。

そして、学年ごとに必要な知識や技能を確実に身につけさせ、「できる」「わかる」喜びを実感させたい。さらに、算数の授業を通して、学んだことを未習のことに「使える」ことを経験することで、子どもたちに未知の事柄にどう対処すべきか基本姿勢を学ばせたい。それが生きる力を身につけていくことにつながると思う。

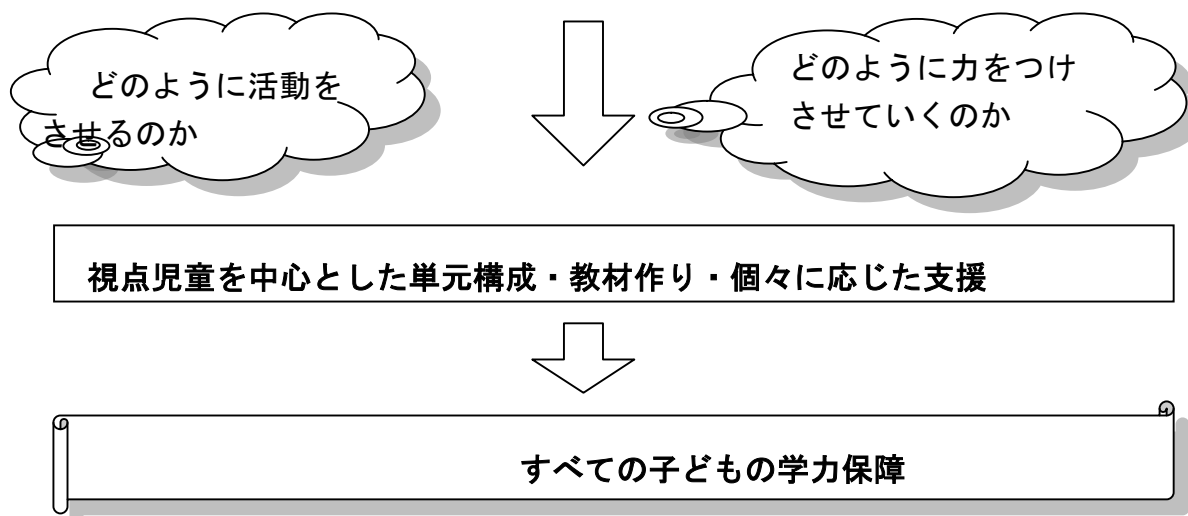
(1) 授業研究

- ① 学力保障を特に必要とする児童（外国人児童を必ず入れる）を視点児童として単元の中に位置づけ、その児童に応じた授業をつくる研究を進める。

授業	視点児童を位置づける
----	------------

一人ひとりの児童をていねいにとらえていくこと

学力を保障していくために支援を必要とする児童を位置づける
日本語能力が十分でない外国人児童を含む



本来ならば、1時間の授業の中で、一人ひとりに即した授業を構想し、一人ひとりをしていねいに観察し、個に応じたきめ細やかな指導を粘り強くしていくことが望ましい。そこで、私たちは、1時間の授業のなかに、視点児童を位置づけ、その児童を伸ばすための授業を構成していくことにした。その中に日本語能力が十分でない外国人児童を含むこととし、算数科の中でどのような支援があるか、どのような支援が有効かを考えてきた。その児童をしていねいに観察し、その児童に応じた指導を展開していくことで、1時間の授業の中で、視点児童の伸びを保障していくことが、すべての子どもの学力保障につながると考えている。

② 支援シートを作成する

在籍学級といきいき教室の両方で児童の日本語の力を伸ばし学力を保障していくためには、児童についての共通理解とともに、協働での授業づくりが必要である。よって、授業をつくっていく過程で在籍学級担任といきいき教室担当が支援シートを活用する機会を設けた。視点児童が外国人児童であればJSLバンドスケールの判定結果を支援シートに載せ、視点児童がことばの面でどのような課題を抱えているかを具体的に共通理解するようにした。そして、本時の目標を達成するために必要な力や授業を通してつけていきたい力を、在籍学級担任といきいき教室担当が話し合い、支援や学級活動を共に考えながら授業づくりにいかすことにした。支援シートは、在籍学級担任といきいき教室担当が視点児童をより細やかに見ていくための手立てと考える。

③ さらに、課題解決型の授業を研究する。

- ・学習意欲をもたせる課題の工夫。
- ・具体的操作活動を重視。
- ・新しく出てきた言葉と意味をきちんととらえさせる。

・説明力をつける。

④ 研究授業

※各学年，公開授業をする。全体提案は，低中高で2

(1) 日常の取組

① 朝の15分間の学習（チャレンジタイム）として朝の学習に取り組む。

月→算数 火→読書 水→国語 木→算数 金→読書

とする。これは原則なので各学年で考える。（各種委員会の検査は火金にする。）

この15分間で基礎基本の力や学習規律を定着させる取組を進める。内容については各学年で検討する。

（例）国語……漢字・音読・スピーチなど
算数……100マスプリント・四則計算

② 家庭学習の習慣を身につける。

毎日，宿題をさせる。計算・音読・漢字が基本であるが，宿題の出し方は学年にまかせる。

自宅学習ノート（自主学習）を各学年の実態に合わせて取り組む。

③ 4～6年生でステップ学習（課題別学習）に取り組み，ひとりひとりのつまづきを把握し，ひとりひとりの課題に応じた指導をしていく。

④ 夏季休業中に，ステップ補充学習を実施する。4～6年を対象にする。

⑤ 4～6年生でCRT学力検査を実施し，結果を分析することで，児童の学力の定着状況をとらえると同時に，強み弱みを把握し，指導に生かす。

⑥ 指導の統一

・筆箱に入れておくもの・・・赤鉛筆（基本），鉛筆4～5本，消しゴム，ミニ定規，カラーペン（ノート整理用5・6年）

シャーペンは，授業中は使わないことを徹底する。

4 年間研修計画

4月	本年度の研究主題・研究内容の検討，年間研修計画の作成 4 / 1 3 (P) 1学期研究計画作成 (P) チャレンジタイム (朝の学習) 開始 (D) 教材研究 (D)
5月～	授業研究，視点児童への支援の実践 (D)
6月	ステップ学習 (課題別学習) 開始 (D)
7月	夏のステップ学習 (補充学習) 実施 (D)
8月	1学期の研究まとめ 前期学校経営品質による評価 (C)
9月	研修会・講師招聘 (A) 視点児童への支援方法の改善 (A) ステップ学習の指導案見直し (A) 2学期研究計画作成 (P)
10月	教材研究，研究授業 (D)
11月	視点児童への支援の実践 (D)
12月	
1月	2学期研究のまとめ (C)
2月～	CRT学力検査実施 (5年) (D) 学校教育活動評価アンケート (児童・保護者対象) の実施 (C) CRT学力検査実施 (4, 6年) (D)
3月	CRT学力検査結果分析 (C) 本年度研究のまとめ 学校経営品質による評価 (C) 学校評議員による評価 (C) 研究成果・課題の報告 (A) 来年度研究の見通し (A)

(P…計画, D…実践, C…評価, A…改善・公表)